

旧相川拘置支所

蔦に覆われた石垣と錆びついた門が相川の歴史的な町並みの中、京町地区の頂上にある古い拘置所を囲んでいる。旧相川拘置支所は 1954 年以来、新潟刑務所の支所として機能していたが、1972 年に閉鎖された。見学者はドアの上下にある錠を外し、中に入ることができる。内部は天窗と大きな窓に照らされ、清潔で明るいと同時に、不気味に時が止まっている。コンクリートの廊下と雑草が生い茂る中庭は静かで平和だ。警備員の姿はなく、畳敷きの独房扉は開け放たれ、歩き回る収容者の姿もない。

拘置所のメイン棟には 6 つの独房があり、うち 1 つは女性用で、その他に風呂、炊事場、書庫がある。事務室と面会室は入り口の小さな棟にある。拘置所は一度に 18 人の未拘禁者を収容することができた。ほとんどは裁判の結果を待つ被告人だったが、厨房には受刑者もいた。近くには警察署と裁判所もあった。

このような古いタイプの牢屋は日本にはほとんど残っておらず、旧相川拘置所は国の登録有形文化財に登録されている。見学者は、出るときに玄関の鍵を閉めさえすれば、好きなだけ拘置所の中にいることができる。